

施設実習の事前事後指導に関する一考察 ——実習前後の意識調査に関する文献調査から——

A Study on Prior Guidance and Follow-up Care of Practicum in Childcare Facility : Through Literature Search on Awareness Survey before and after Childcare Practicum

西村 重喜 西村 豊

Shigeki Nishimura, Yutaka Nishimura

はじめに

近年、保育所待機児童が社会問題として注目されており、内閣府は令和 2 年度末には全国の待機児童を解消することを目標に「子育て安心プラン」を展開し、厚生労働省が「保育所等整備交付金」「保育所等改修費等支援事業」「安心こども基金」などによる財政支援を実施しているところである。¹⁾

一方、保育施設拡充に伴う人材確保については、厚生労働省は平成 27 年 1 月に「保育士確保プラン」を公表し、「保育士試験の年 2 回実施の推進」、「学生に対する保育所への就職促進の支援」、「保育士試験を受験する者に対する受験のための学習費用の支援」、「離職保育士に対する再就職支援の強化」などを実施しているところである。^{2) 3)}

そのような状況下、保育士を目指して保育士養成校に入学した一部の学生は、実習によって保育士をめざす意欲を喪失し、意欲を回復できずに進路変更に至ることがある。このことは、本学においても実習終了後の学生との面接から実感できることがあり、学生の個性によっては実習期間中の「職員間のコミュニケーション」が無視できないと推測する。実習に関する事前事後指導のカリキュラムを構築するにあたり、職員間のコミュニケーションを的確にとらえ、保育士をめざす意欲の低下に直結しないように工夫する必要がある。

そこで、図 1 のモデルを想定して、「意欲を左右する要因の分析」及び「コミュニケーション力を左右する要因の分析」を行うことを目指し、学生のモチベーションを変化させる要因の分析を試み、豊岡短期大学論集第 15 号で報告した。⁴⁾

その結果、「園児（利用者）とのコミュニケーション、保育者（職員）からの指導や助言が意欲を左右すること」、「部分実習や研究保育の準備と成否は意欲を左右するが一時的なものであること」が考察できたが、学生への影響が大きいと思われる「どのような指導や助言が意欲を左右したのか」を明らかにする構成になっていなかった。本研究では、「どのような指導や助言が意欲を左右したのか」を明らかにする方法と「指導や助言を適切に受け止める資質」を明らかにする方法を構築するため、先行研究よりアンケート調査とその効果を検討した。

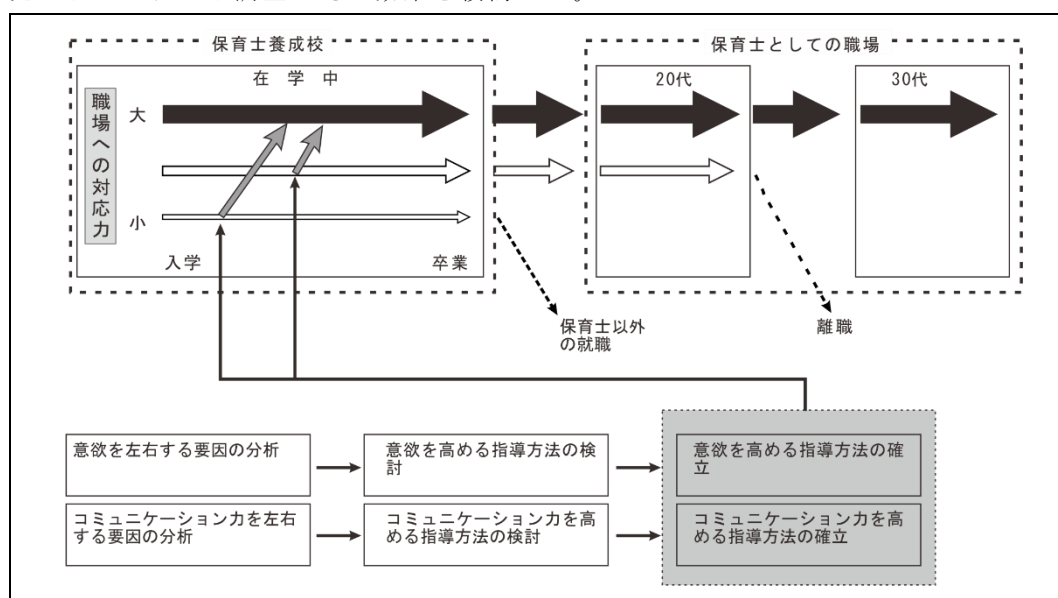


図 1 職場への対応力を育むための取り組み

方法

2020 年 9 月に国立情報学研究所の文献情報・学術情報検索サービス (CiNii Articles) を用いて論文検索を行った。先行研究によると、実習前後での保育所や施設等への理解の変化に着目した調査研究、授業改善の報告は多いが、意欲の変化に着目した研究は極端に少なく、「保育実習 モチベーション」をキーワードとした検索件数は 2 件、「施設実習 モチベーション」は 3 件、そのうち実習中のモチベーションの変化に着目した研究は豊岡短期大学論集第 15 号への投稿論文を含め 3 件に過ぎなかった。

そこで、モチベーションに近い「意識」、「意識変化」、「意欲」、「意欲変化」もキー

ワードとして検索を行った（表 1）。

これらの検索された文献のうち、保育士を目指す学生の「意欲を左右する要因の分析」及び「コミュニケーション力を左右する要因の分析」に関する文献計 20 件を研究対象とした。

また、今回の研究における「意欲を左右する指導や助言」と「学生の資質」の扱いは、文献ごとに異なっている。そこで、扱い方の傾向から、20 件の文献を 7 類型に分類し（表 2）、アンケートの概要と得られた結果を検討した。

表 1 CiNii Articles による検索結果

キーワード	検索件数	キーワード	検索件数
保育実習	960	施設実習	483
保育実習 意欲	18	施設実習 意欲	14
保育実習 意識	90	施設実習 意識	65
保育実習 意欲変化	0	施設実習 意欲変化	0
保育実習 意識変化	2	施設実習 意識変化	4
保育実習 意識変化	7	施設実習 意識変化	5
保育実習 意識変化	23	施設実習 意識変化	16
保育実習 モチベーション	2	施設実習 モチベーション	3

表 2 アンケートの概要と得られた結果

類型	アンケートの概要	件数
1 学生対象（実習前後）	実習前、実習後に学生が総合的なアンケートに回答	2
2 学生対象（実習前）	実習前に学生が総合的なアンケートに回答	1
3 学生対象（実習中）	実習中に学生がモチベーションの変化について記録	1
4 学生対象（実習後）	実習後に学生が総合的なアンケートに回答	13
5 卒業生対象	卒業生が総合的なアンケートに回答	1
6 指導者対象	指導者が養成校の総合的なアンケートに回答	1
7 関係者対象	実習先の関係職員が養成校の総合的なアンケートに回答	1
合計		20

結果

類型1 学生対象（実習前後）

村田久・岡田美紀（2013）⁵⁾と貴田美鈴・谷口篤（2012）⁶⁾は、同一学生を対象として、実習の直前と直後に調査することで同一集団の変化を測定した。

村田ら（2013）⁵⁾は、施設実習の事前指導において実習への不安感を軽減させ、実習への期待感を高めることを重視してアンケートの設計を行い、実習前調査では「実習準備」、「不安感」、「期待感」を、実習後の調査では、「充実感」、「自己評価」を調査項目とした。「不安感」の調査から、66%に及ぶ学生が「職員とのコミュニケーション」に不安を抱いていること、「自己評価」の調査から実習後に「不安感」が減少した学生ほど「自己評価」に影響を及ぼす傾向があることを示唆した。

貴田ら（2012）⁶⁾は、「実習不安」の項目を「対人関係」、「入所児との関係」、「実習完遂不安」に区分して施設実習の実習前と実習後に同様の調査を行ない、不安感の強い学生ほど事前の準備を綿密に行ない、実習後に不安感を解消する傾向があることを示唆した。

村田ら（2013）⁵⁾と貴田ら（2012）⁶⁾は、「施設実習の意義の理解」、「実習の課題や目標の設定」、「施設の利用児・者の理解」を事前指導で十分に行ない、主体的に事前準備を行うように支援することの重要性和、実習前に不安感が乏しく事前の準備が粗い学生が一定数存在することを示唆した。

類型2 学生対象（実習前）

長谷部比呂美（2007）⁷⁾は、学生が保育所実習に対して抱く不安感や期待（忌避）感の関連を明らかにすることを事前指導の改善に結びつけることを重視してアンケートの設計を行った。「指導」、「事前理解」、「人間関係」、「活動内容」の調査から、「指導案の作成と部分・責任実習」、「子どもたちとの関係」・「実習先の先生方との関係」に不安を抱く学生の水準が高いことを示唆した。

さらに、「指導案の作成と部分・責任実習」への不安については事前指導の改善を通して対応すること、「子どもたちとの関係」、「実習先の先生方との関係」についてはボランティアへの積極的参加やインターンシップ制度の柔軟な活用等による対応を提案している。

類型3 学生対象（実習中）

川島恵美・川本健太郎・藤之原綾・峰島里奈（2007）⁸⁾は、宿泊実習を行う学生のストレスを明らかにし、施設実習前の支援内容に結びつけることを重視してアンケートの設計を行った。実習期間中のモチベーションを日々10段階で記録し、理由を記述する方法であった。回答した学生については、ストレスを詳細に把握でき、き

わめて効果的な調査方法である。反面、学生の個人情報を対象とした調査であることから調査協力を得られる対象が限定されサンプリングに限界が生じている。

類型 4 学生対象（実習後）

この類型が最も多く、調査項目も多様であった。

新保友恵(2018)⁹⁾は、「一部の学生は保育施設職員との関わりや保育施設職員間の関係性を目にしたことをきっかけに動揺し、保育職に就かないという選択をしている」ことに着目した考察を行った。

田爪宏二(2012)¹⁰⁾は、保育所実習を通した保育者アイデンティティの確立と就業意識の関係性に着目した調査を行い、一般職志望者の中には、実習の経験により保育職への就職志望が無くなった者もいることを考察した。

田爪宏二(2013)¹¹⁾は、保育職志望者と一般職志望者の実習先での積極性の違いに着目し、一般職志望者の保育所実習に対する不安感は保育職志望者に比べ大きく、自信喪失する傾向があることを考察した。

田爪宏二(2018)¹²⁾は、保育者効力感に着目した調査を保育所実習終了後に行い、対人場面の効力感が高い者は、子どもや保育者の行動、態度、感情などに敏感に気づくことができるため、自分が子どもや保育者からどのように見られているかということを過剰に気にしてしまい、自分の実習生としての態度や常識に対する不安が高まる可能性を考察した。また、4年制大学と短期大学との比較を行い、実践的な学びを中心的に行う短期大学の学生は、保育者効力感の高さがそのまま実習の不安を低減させるとともに、実践の中で保育に対する新たな気づきが多いことを考察した。

小倉毅・土谷由美子(2009)¹³⁾は、大学で習得した知識・技能を実践する応用力と施設実習の関係に着目した調査を行い、その中に実習中のストレスに関する項目を設けた。学生の12.5%が職員との関係がストレスになったと回答したことについて、積極的に職員とも関わりたいという気持ちがあるものの、忙しい職員の姿をみていると、何時どのような場面で質問していいかわからないなどが理由となっていると考察した。

廣瀬久子・千勝真知子(2009)¹⁴⁾は、実習に対する学生と実習先施設の意識の差が実習評価と自己評価の違いに現れることに着目して保育所及び施設での実習について調査を実施した。学校生活の中で助言を素直に受け止めることができない学生は実習先から「助言が改善されない」などの指摘を受ける傾向があることを考察した。

土谷由美子(2007, 2008)¹⁵⁾¹⁶⁾は、実習経験を総括する目的で就労意識に関する項目を含む調査を保育所実習及び施設実習終了後に実施した。総括は、前年度調査との比較によるものであり、同一集団の変化を把握することは考慮されていなかった。

土谷由美子・平尾太亮(2014)¹⁷⁾は、「実習前後の施設に対するイメージの変化」、「実習先での指導内容」、「約10年前の学生と施設へのイメージの比較」に着目して施設

実習終了後に調査を行った。実習後に施設に対するイメージがよくなる割合が大きいこと、その傾向は 10 年前と変わらないこと、実習先での指導内容は学校で学んだ知識と一致せず、知識と個々の児童に応じた技術の統合が難しいことを考察した。

平尾太亮・土谷由美子(2016)¹⁸⁾は、施設実習に対するイメージの変化に着目して調査を実施した。実習後に非常に良いイメージをもっていると答えた割合が大幅に増加し、どちらでもないと答えた割合が大幅に減少する傾向があった。しかし、その要因が「職員の方がとても優しく対応して下さった」、「利用者の方との関わりが楽しかった」など表面的であり、学生たちが目にした情報と実際の施設、利用児の姿には大きな隔たりがあるため、その点について補っていくことが養成校の課題であることを示唆している。

斉藤葉子・大木みどり(2008)¹⁹⁾は、保育所実習に対する 1 年次生の不安感についてその実態を探ることを目的に調査を行った。実習指導者との対人関係では「どのように接するか不安」、「怖い」、「話すタイミングがわからない」が占める割合が大きく、対象児との対人関係では「対応がわからない」、「知識がない」、「行動が理解できない」が占める割合が大きいことが示されていた。

多田内幸子・重永茂(2013)²⁰⁾は、施設実習を総括する目的で、就業意識の変化を含む調査を行った。実習を通して、施設への就職を希望する学生の割合が実習前の 3% から 30% に大幅に増加したことが示されている。

中野菜穂子(2005)²¹⁾は、施設実習後の達成感・満足感に着目した調査を 2000、2001、2003 年度に行った。実習後の未達成感・不満感を感じている学生の割合は調査年度により 17%～28% の変動があるが、そのうち指導担当者との関わりを要因とする学生は 2% 程度で推移していた。

類型 5 卒業生対象

大和田明見・関根美保子・鈴木春江(2014)²²⁾は、卒業生を対象とするアンケートにより、施設実習の持つ意味について考察を行った。障害への意識の変化や保育士の専門性の再認識など、自分自身の気づきに関する回答が 38% を占め、就職意識に変化が生じたとする回答が 8% に及ぶなど、施設実習が多くの学生に変化をもたらしていたことが示された。

類型 6 指導者対象

岩本義浩・中島たまみ・松永繁・黒木豊域(2019)²³⁾は、実習生に対する実習指導者の視点や不満を明らかにするため実習指導者を対象とする調査を行った。「実習に対する姿勢・態度の欠如」、「学生との意思疎通困難」、「指導への反発」、「社会的常識の欠如」など、日頃、私たちが学内で課題と考えていることと同様のことを実習指導者も感じていることが示された。

類型 7 関係者対象

河野利津子・高野卓郎・須田康之(1994)²⁴⁾は、事前・事後指導の充実を目指して保育所実習先の関係保育士に対する調査を行った。実習先は養成校に対して「養成校での学びと実習園で指導して欲しいことを明確にすること」、「学生が目的意識あるいは具体的なテーマをもって実習にのぞむよう事前に指導すること」を望んでいることが示された。

考察

類型 1 学生対象（実習前後）について

村田ら(2013)⁵⁾と貴田ら(2012)⁶⁾の同一集団の実習の前後の変化を調査した直前と直後に調査する手法は、合理的で信頼性の高い調査結果が期待できる。

授業の中で調査を行う場合、「保育実習指導Ⅰ」・「保育実習指導Ⅱ」・「保育実習指導Ⅲ」（以下、「保育実習指導Ⅰなど」とする）が適切であると考えるが、実習前は、「実習計画書」や「指導案」の添削指導、実習先への提出書類の作成指導等に追われており、実習前調査を実施する時間の確保に工夫が必要である。

また、学生に対して不用意に不安や先入観を与えることのないよう、設問の表現には十分な配慮が必要である。「保育実習指導Ⅰなど」では、事前学習の進行が学生の意識に変化を与えると予想できるので、調査時期が一定になるように配慮することも必要である。

さらに、きめ細かに情報を収集しようとすればするほど、実習現場の様子を知らない学生にとってはイメージしにくい設問になる可能性がある。

これらのデメリットを避ける工夫ができれば、実習前後の調査の導入を図ることにより、「意欲を高める指導方法」、「コミュニケーション力を高める指導方法」の確立に資することができると考える。

類型 2 学生対象（実習前）について

長谷部(2007)⁷⁾が着目した「不安感」や「期待（忌避）感」に手を加えた調査を行うことによって実習前に意味のある調査が行える可能性がある。そのためには、学生の不安感や期待感への適切な対応方法を確立させておく必要があり、その確立に向けては、実習後の調査を積み上げる必要がある。

類型 3 学生対象（実習中）について

川島ら(2007)⁸⁾が行った実習中の調査手法は、本学でも一昨年から導入している。本学では、各設問に選択肢を用意したり、記述欄を少なくしたりするなど、実習中の学生の負担を増やさないように配慮しているが、反面、選択肢に反映しにくい事象を捉

え損ねている可能性がある。川島ら(2007)⁸⁾が用いた様式を参考に改良を施す余地があると考ええる。

川島ら(2007)⁸⁾の様式、本学の様式ともに、モチベーション変動の要素は、学生の主観によって記述され、実習指導者の目に触れることはない。一方、岩本ら(2019)²³⁾の調査で、実習指導者は実習生に対して「意思疎通の困難」、「指導への反発」、「実習に対する姿勢・態度の欠如」、「基礎学力不足」、「社会的常識の欠如」、「学習不足」などの点で指導の困難さを感じていることが明らかにされている。

また、佐藤達全(2017)²⁷⁾は、「実習中に注意や指摘された事柄」の代表的な事柄として、「日常の挨拶がしっかりできない」、「自分から質問することが少なく、指示を待っている学生が多い」など、岩本ら(2019)²³⁾と同様の事象を述べている。

したがって、学生向けの様式の改訂を検討するだけでなく、指導者の考えや感想を収集する仕組みを設けることが必要である。

類型 4 学生対象（実習後）について

この類型にあてはまる 13 件の調査は、事前指導に向けた材料収集という点で共通しているが、調査項目や調査後の処理の仕方はそれぞれに特徴がある。「どのような指導や助言が実習生の意欲を左右したのか」を明らかにしようとする本研究に最も近い考察は、新保(2018)⁹⁾で報告されている。

実習評価と自己評価の差から課題を明らかにしようとした廣瀬ら(2009)¹⁴⁾の方法は、分析の視点が深く、学生への指導助言の材料とする手法は緻密であり、本学における事後指導に反映したい。

類型 5 卒業生対象について

大和田ら(2014)²²⁾の調査結果は、卒業生からも在校生を対象とした土谷ら(2014)¹⁷⁾や平尾ら(2016)¹⁸⁾などと同様の傾向が測定されていることを示唆している。

「どのような指導や助言が実習生の意欲を左右したのか」を明らかにしようとする本研究において、調査対象者を卒業生に拡大する必要性は見出せなかった。

類型 6 指導者対象について

実習指導者を対象とする岩本ら(2019)²³⁾は、項目の設定の仕方によっては、実習生に対する実習指導者のとらえ方を明らかにすることができることがわかった。

本学でも実習先にアンケートを送付して回答を依頼しているところであり、岩本ら(2019)²³⁾の様式を参考にした改訂を行うことにより、効果的な活用が期待できる。

類型 7 関係者対象について

河野ら(1994)²⁴⁾は、調査項目を精選し、回答者の負担にならないように配慮したことがうかがえる。実習受入施設の複数の職員に回答を求めることで、より多くの情報が収集できるだけでなく、回答者の個性による情報の偏りを和らげることも期待でき

る。今後、実習先を対象とする調査を行う際に参考にしたい。

まとめ

今回の文献調査から、施設実習の事前事後指導では、保育職志望の意識の高低と自信喪失の関係に着目した助言、子どもや保育者からの評価への不安解消に向けた事前指導が重要であることが認識できた。

このことを踏まえて「保育実習指導Ⅰ（施設）・Ⅲ」カリキュラム改訂を図るとともに、改訂の効果を測定する調査方法の開発に取り組むことが今後の課題である。

引用文献

- 1) 首相官邸. (2017). 子育て安心プラン. 内閣府.
http://www.kantei.go.jp/jp/content/20170602plan_01.pdf(2020年10月9日18:00)
- 2) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課. (2015). 保育士確保プランの公表. 厚生労働省. <https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000070942.pdf>
- 3) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課. (2015). 保育士確保プラン. 厚生労働省. <https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000070945.pdf>
- 4) 西村重喜. (2018). 保育実習におけるモチベーション変動について：モチベーションを変動させる要因の分析. *豊岡短期大学論集*, 15, 37-46.
- 5) 村田 久・岡田美紀. (2013). 保育実習（施設）の実習前後の意識変化と実習評価：施設実習事前事後指導の向上を目指して. *環太平洋大学研究紀要*, 7, 23-27.
- 6) 貴田美鈴・谷口 篤. (2012). 保育実習(施設)の事前指導と実習後の学生の意識：実習の期待感と不安感、及び実習成果の自己評価. *岡崎女子短期大学研究紀要*, 45.
- 7) 長谷部比呂美. (2007). 保育実習に関する学生の意識について：実習不安を中心として. *淑徳短期大学研究紀要*, 46, 81-96.
- 8) 川島恵美・川本健太郎・藤之原綾・峰島里奈. (2007). 生活施設実習過程における実習生のモチベーション変動及び影響を与える要因：児童養護施設実習を経験した実習生の記録から. *関西学院大学社会学部紀要*, 103, 47-58.
- 9) 新保友恵. (2018). 保育施設に求められる職場環境と組織作りに関する研究：保育専攻学生の就職意欲向上にむけて. *信州豊南短期大学紀要*, 35, 125-146.

- 10) 田爪宏二. (2012). 保育者養成課程の大学生における保育実習の印象および就業意識の希望進路による差違:「保育者アイデンティティ」の確立の視点からの検討. *鹿児島国際大学福祉社会学部論集*, **30-4**, 43-57.
- 11) 田爪宏二. (2013). 保育実習の進行に伴う大学生の保育実習の印象および就業意識の変化:「保育者アイデンティティ」の確立の視点からの検討. *鹿児島国際大学福祉社会学部論集*, **31-4**, 13-28.
- 12) 田爪宏二. (2018). 4年制大学における保育実習の体験および就業意識における保育者効力感の影響:実習の進行による変化. *京都教育大学紀要*, **132**, 33-45.
- 13) 小倉 毅・土谷由美子. (2009). 保育士養成課程における施設実習に関する課題:アンケート調査からの一考察. *中国学園紀要*, **8**, 77-88.
- 14) 廣瀬久子・千勝真知子. (2009). 保育実習における学生の意識変化の考察実習評価と自己評価を対照として. *つくば国際短期大学紀要*, **37**, 13-22.
- 15) 土谷由美子. (2007). 保育実習に関する意欲と現状について:学生のアンケートを中心に. *中国学園紀要*, **6**, 1-6.
- 16) 土谷由美子. (2008). 保育実習に関する意欲と現状についてⅡ:学生のアンケートを中心に. *中国学園紀要*, **7**, 167-171.
- 17) 土谷由美子・平尾太亮. (2014). 保育士養成課程における施設実習に関する課題(2):現状と約10年前の比較. *中国学園紀要*, **13**, 31-36.
- 18) 平尾太亮・土谷由美子. (2016). 保育士養成課程における施設実習に関する一研究. *中国学園紀要*, **15**, 5-10.
- 19) 斉藤葉子・大木みどり. (2008). 実習の事前・事後指導に関する研究(V):保育実習における1・2年次学生の不安意識とその問題について. *羽陽学園短期大学紀要*, **8-2**, 21-40.
- 20) 多田内幸子・重永茂. (2013). 施設実習に関する本学幼児教育学科学生の意識調査. *久留米信愛女学院短期大学研究紀要*, **36**, 55-61.
- 21) 中野菜穂子. (2005). 保育実習生の達成感・満足感の構成要素と事前・事後指導の課題. *岡山県立大学短期大学部研究紀要*, **12**, 97-105.
- 22) 大和田明見・関根美保子・鈴木春江. (2014). 保育士養成課程における施設実習の意味と意識の変化. *帝京大学教育学部紀要*, **2**, 275-284.
- 23) 岩本義浩・中島たまみ・松永繁・黒木豊域. (2019). 施設実習での指導に関する意識調査:実習指導者から見た実習生の課題. *敬心学園研究ジャーナル*, **3-2**, 81-90.
- 24) 河野利津子・高野卓郎・須田康之. (1994). 保育実習園と養成校の連携に関する研究:実習に対する保育所の意識. *日本保育学会大会研究論文集*, **47**, 350-351.

- 25) 藤田 哲也. (2018). 保育実習 I (施設実習) の事前指導に関する一考察: 外部講師の講義が学生の意識に与える影響とは. *滋賀文教短期大学紀要*, **20**, 26-34.
- 26) 古川 洋子・伊藤 亮. (2017). 保育者養成校における保育実習事前事後指導の一考察. *愛知学泉大学・短期大学紀要*, **52**, 85-92.
- 27) 佐藤達全. (2017). 「保育実習指導」で見えてきた保育科学生の問題点と保育者養成: 基本的な生活習慣と学習に対する意識を中心に. *育英短期大学研究紀要*, **34**, 69-82.

